

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 09



淀川三十石船が行き交った 枚方浜と「くらわんか舟」

江戸時代の枚方は、多くの旅籠や料理屋が建ち並ぶにぎやかな宿場でした。「鍵屋」は伏見と大坂を結ぶ淀川三十石船の船待ち宿として栄え、現在も、「市立枚方宿鍵屋資料館」として残っています。

大坂から伏見まで上り12時間下り6時間を要し、1000の船が往来した当時の枚方浜には、幕府が「高槻柱本村」に特権として「茶船(煮売船)」を認めたことで、三十石船相手に餅やごはん汁、酒などを売る小舟が盛んに行き交っていました。

その「茶船(煮売船)」が、「酒、食らわんか」と商売をする様子から「くらわんか舟」と呼ばれ、売り手と買い手のやり取りが枚方浜のひとつの風物詩となっていました。

買い手がたとえ身分の高い侍であっても、幕府からじきじきに特権が与えられている売り手はへりくだることなく「買わんのは、金がないからか？」などと侍をからかい、なんとか売りつけようとしたそうです。



鍵屋資料館の2階では食事ができる大広間があり、1階は資料館になっています



春と秋に天満橋・八軒屋浜から枚方間を運航する観光船では「淀川三十石船舟唄」をきくことができます

Culture Navi かるちャーナビ

平和の種まく人 09 九条の花を咲かせよう



泉佐野市職労の事務所前で「ケータイ憲法に、ぜひアクセスを!!」と藤岡さん

藤岡 誠さん (「ケータイ憲法」管理人)
泉佐野市職員労働組合

インターネット上の「ケータイ憲法」という掲示板の管理人である藤岡誠さん。2年ぶりに大阪府後期高齢者医療広域連合から泉佐野市役所に復帰した機会にこの掲示板を復活させました。2004年に大江健三郎氏らが発足させた「九条の会」のアピールの

は、「一人でもできること」もうひとつは「共感を得やすい運動」ということです。

藤岡さんは2002年までの5年間、全解連運動でサイトを開設した経験から、一人でもできて組織に縛られず、草の根に広がっていく可能性があるサイトに注目しました。しかし、サイトの弱点は、反応がないと続ける甲斐がなく、へこたれやすいこと。「『ケータイ憲法』で、若者をはじめ多くの人たちが『いつでも憲法と一緒に』『憲法なら知っている』という状況を作り出せないかと思っています。このサイトの存在を広めてください」と語る藤岡さんです。

憲法が守られていない現状を 少しでも変えたい!

中に「『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力をいまずぐ始めること」の呼びかけにこたえて、このサイトを開設しました。この「呼びかけ」に心を動かされた理由のひとつ

咲き誇っていた牡丹の花も散りはじめ、黒い土の上に二、三片の花びらが散りおちて重なっている様子です。「牡丹散って」の次の「打ち重なりぬ」とのあいだに一拍の間(ま)をおくことにより、まず今まであでやかに咲いていた牡丹のさまを読者に想像させます。そして、その大輪の花が今まさに散ったのだと訴えているのです。

牡丹散って 打ち重なりぬ 二三片
与謝 蕪村

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録



「ロボット」

インドが実は世界最大の年間制作本数の映画大国であることは知られていません。インド映画は歌い踊り、生活感がない作品が多いといわれていますが、この映画もそのひとつで、奇想天外なアクションが特徴です。

ロボット工学のバシー博士は、自分そっくりの高性能ロボット「チッテイ」を開発。人間の感情をプログラムされたチッテイは、博士の恋人サナに恋をしますが「人間と機械は愛し合えない」と相手にされません。失恋のショックから大暴走を始めたチッテイは、自ら大量生産した自分のレプリカで最強の戦闘軍団を結成し、サナを手に入れるため、人

奇想天外のインド映画

間を相手に破壊行為を繰り返します。電車内、高速道路、市街地でのしつこすぎるほどのアクションシーンはジャッキー・チェンやブルース・ウィルズも仰天する奇抜さです。チッテイとサナが繰り広げるダンスシーンもコミカル。

主演のラジニカントはインド映画界のスーパースター。ヒロインのアイシユワリヤー・ラーイは1994年度ミス・ワールドに輝いた人気女優。ハチャメチャなアクションシーンが話題になって世界各国で公開され、100億円以上の興行収入を記録しているといえます。本国では上映時間3時間超の作品でしたが日本公開では2時間20分に。

物事を正しく判断するためには、見返すという態度が大事ですが、美しいものを見ないためには「見返す」ことはないということです。アミエル (1821~1881) が有名になったのは、1万7000ページに及ぶ「日記」です。19世紀末から20世紀にかけて、スイスのみならずヨーロッパの作家たちにも大きな影響を及ぼしました。

正しく見るためには二度見よ
美しく見るためには一度しか見るな
アミエル (スイスの思想家)